

春一番、鹿島立ち

鹿島の祭頭囃し

令和2年

◆祭頭祭 **3月9日(月)**

◆祭頭囃し・春季祭

3月14日(土)

3/14 祭頭囃しタイムスケジュール

| 18:00 | 16:30 | 14:50 | 13:40 | 13:10 | 12:30 | 12:00 | 時間 |
|-------|-------|--------|-----------------|-------|--------|--------------------|---|
| 春季祭 | 一斉囃し | 鹿島神宮境内 | 踊り披露 (うちだや前) | 囃し開始 | 角内大町通り | 踊り披露 (いきいきサロン前) | 出陣 仲町通り囃し開始 |
| | | | | | | | 溝口郷 〔大総督〕山本開琉 〔組数〕10組 〔人数〕200名 |

お問合せ先

鹿嶋市観光協会 ☎0299-82-7730
<http://www.sopia.or.jp/kashima-kanko/>

鹿島神宮 ☎0299-82-1209
<http://www.kashimajingu.jp/wp/>

鹿嶋市商工会 ☎0299-82-1919
<http://www.sopia.or.jp/shokokai/>

鹿嶋市商工観光課 ☎0299-82-2911
<http://city.kashima.ibaraki.jp/>

神栖市教育委員会 ☎0299-77-7495

鹿嶋市教育委員会 ☎0299-82-2911

【交通アクセス】
 東京方面 ●車=東関東自動車道潮来I.C.から車で10分
 ●バス=東京駅八重洲南口から高速バスで120分
 埼玉・栃木方面 ●車=圏央道大栄JCTから東関東道潮来I.C.
 51号経由で30分 ●車=北関東自動車道水戸大洗I.C.
 国道51号経由で50分

春の訪れを告げる祭頭祭

毎年三月「イヤートホヨトホヤア」の歌に合わせて色鮮やかな衣裳を身に付けた囃人が六尺（百八十センチ）の檜棒を組んで解き、囃しながら街中を練り歩く勇壮な祭りです。

奈良朝の頃、武運長久を祈って旅立っていた防人たちの「鹿島立ち」の故事を表わすと言われていますが、本来は五穀豊穡・天下泰平を願う祈年祭と言えます。

鹿島地方に春を呼び、人々の健康や豊作を願って行われます。



祭頭祭は、年間八十回を数える鹿島神宮の行事の中でも最も規模が大きく、勇壮な祭典です。午前十時、昨年の春季祭で当番に卜定された大総督が狩衣姿で家族役員に護られながら昇殿し祭頭祭が厳かに執行されます。



大総督は祭頭囃し当日、月読社を参拝し本陣へ帰着し、狩衣を解き甲冑を着装します。十二時より、ほら貝・太鼓が鳴らされる中、祭事委員長の掛け声を合図にいよいよ祭頭囃しの行列が本陣を出立。行列が伊勢神社前に至り拝礼。その後行列は仲町通りへ向かいます。

色鮮やかな衣裳の囃人が、ほら貝や太鼓の音に合わせて、囃し唄を歌い、ガッシ、ガッシと檜の棒を組みながら、仲町通り・角内通り・大町通りを練り歩き、いよいよ鹿島神宮に囃し込みます。威勢のいいかけ声は夕刻まで神宮の森に響きわたります。

祭頭祭の歴史

祭頭祭の起原は奈良時代の天武朝とも平安時代とも諸説ありますが、文献として遡りうるのは建仁四年（一二〇四）でこの時は、片野・長保寺と平井・宝持院が祭の頭人を務めています。祭頭祭の祖形はその囃言葉からも窺えますように五穀豊穡、天下泰平を主な願意とする祈年祭に近く、しかも地域に密着した祭りでした。現に明治初期の茨城県への進達書には祭頭祭を「祈年祭」と規定しています。明治までの神仏混淆時代では二月十五日の釈迦入滅の常楽会に習合し、その名残りから男子の大総督を今でも「新発意」と表現しています。昭和五十一年十二月には文化庁から国選択無形民俗文化財の指定を受けています。

これまで同日に斎行されておりました祭頭祭、祭頭囃し、春季祭は、令和2年より下記の通り斎行いたします。

◆祭頭祭…【3月9日】(日程変更なし)

◆祭頭囃し・春季祭

3月9日が土・日曜日の場合…【3月9日】(日程変更なし)

3月9日が平日の場合 ……【次の土曜日】

鹿島港と鹿島臨海工業地帯



鹿嶋・神栖市にまたがる鹿島港を中心に鹿島臨海工業地帯が広がっています。

宮中ふりかき市

2020
3月14日(土)

●時間：午前10時～午後4時
●場所：ホテル古保里前
観光協会駐車場

■ 飲食コーナー
■ 特産品販売

主催：鹿嶋市宮中地区商店会連合会

後援：鹿嶋市商工会・鹿嶋市観光協会・鹿島神宮



鹿島神宮 周辺

まちあるきマップ



鹿島神宮めぐり

1 大鳥居

東日本大震災で倒壊した鳥居にかわり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素朴で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。



2 楼門

寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ、緑の中にひときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿島神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。



3 本殿

社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拜殿・石の間のいずれもが国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,200年と推定されるご神木です。



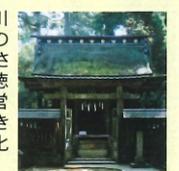
4 鹿園

園内に遊ぶ鹿たちは、「神のお使い」。現在の鹿は、鹿島から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。「アントラー」とは鹿の名前に由来しています。



5 奥宮

慶長10年(1605年)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き遷したもので、重要文化財に指定されています。



6 要石

地震を起こす大なまずの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせぬといわれ、「鹿島の七不思議」の一つにも数えられています。



7 御手洗池

この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つとなっています。公園も整備され、市民の憩いの場になっています。



七福神めぐり

にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めるように右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。



- イ 布袋
- ロ 福祿寿
- ハ 寿老人
- ニ 弁才天
- ホ 大黒天
- ヘ 毘沙門天
- ト 恵比寿

鹿島歴史めぐり

8 塚原ト伝の像



宮本武蔵との「なべぶた試合」の話で知られる塚原ト伝(1489～1571)は、鹿島新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原ト伝誕生五百年を記念して建立されています。

10 根本寺



聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚の禅の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にこへ月見に訪れています。その様子は「鹿島紀行」にも記されており、境内には「月はやし梢は雨を持ちながら」などの句碑も建てられています。

11 鎌足神社

天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祭る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿島神宮の鎮座する地で出生したとあります。



12 一之鳥居と北浦の夕日



大船津はその昔鹿島神宮参拝の玄関口として賑わい、水上に建つ一之鳥居は景観が親しまれていました。その往時をしのび平成25年に建てられたのが現在の一之鳥居です。

9 鹿島城山公園

鹿島神宮駅から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建てられています。

